

J A 柏崎自己改革工程表（平成28年度～30年度）

3年後の成果目標

- ①担い手経営体の面積シェア 60%
- ②正組合員戸数 8000戸キープ
- ③販売品取扱高(合計額) 3%アップ(33億円)
- ④園芸の販売品取扱高 10%アップ(1.3億円)
園芸作付面積 10%アップ(40ha)
- ⑤食農教育活動参加成人人数 500名

成果目標実現に向けた 重点施策と3年後の目指す姿	年次別工程(実施具体策・到達目標)		
	平成28年度振り返り	平成29年度上期振り返り	
地域農業の担い手の育成・支援	担い手経営体を育成し、6割の生産をカバーする。 評価指標：担い手経営体の面積シェア	○TAC担当4名による、担い手経営体への育成支援 資金融資による上期農業融資67件。195,198千円 ○新規就農の生産者へ青年就農給付金を活用するための相談 面接を行っている。(21名) 目標：55% (28年実績：59.5%)	○TAC担当4名による、担い手経営体への育成支援 資金融資による上期農業融資59件。169,728千円 ○新規就農の生産者へ青年就農給付金を活用するための相談 面接を行っている。29年(3名) 目標：58% (上期実績：60.1%)
	担い手経営体に対するJAのTAC活動を強化し、所得向上の支援をする。 評価指標：個別相談	○上期は担当4名が単収の少ない生産者をリストアップし、 収量向上を図り所得確保の相談を行った。(各担当3名) 目標：12件 (28年実績：12件)	○TAC担当4名が単収の少ない生産者をリストアップし、 収量向上を図り所得確保の相談を行った。(各担当2名) 目標：12件 (上期実績：8件)
	生涯現役・一生農業運動を展開し、多様な担い手を確保する。 評価指標：正組合員戸数	○定年帰農者向け畑作講習会 ○JA全体で正組合員の減少対策検討する 目標：8,200戸以上 (28年実績：7,846戸)	○定年帰農者向け畑作講習会(下期) ○正組合員の減少対策として総合情報データベースを 活用し組合員家族等リストアップしアプローチを行う (下期) 目標：8,200戸以上 (上期実績：7,814戸)

成果目標実現に向けた 重点施策と3年後の目指す姿	年次別工程(実施具体策・到達目標)		
	平成28年度振り返り	平成29年度上期振り返り	
園芸生産の拡大	園芸重点8品目の生産拡大を40haを達成する。 評価指標：重点品目作付面積	○玉ねぎ乾燥調整機・枝豆調整機・予冷庫を導入。 玉ねぎについては定植・収穫機械を貸出(収穫4ha。定植6ha) 乾燥調整については100t処理。 枝豆は調整荷受け量で9t処理。 予冷庫は玉ねぎ100t出荷内10t予冷庫で保管し長期出荷(2月中旬) ○大規模農家、生産法人を中心に作付け普及推進 目標：28ha (28年実績：21.9ha)	○玉ねぎ乾燥調整機・定植機・収穫機、枝豆収穫機を導入。 玉ねぎについては定植・収穫機械を貸出(収穫6ha。定植8ha 予定)乾燥調整については100t処理。 枝豆は調整荷受け量で14t処理。作付け10haに増加 予冷庫は玉ねぎ100t出荷内7t予冷庫で保管 ○大規模農家、生産法人を中心に作付け普及推進 目標：28ha (上期実績：26.9ha)
	食農教育の推進を目指し学校給食供給率の拡大 評価指標：供給率	○学校給食納入 30品目 26t出荷(玉ねぎ出荷増) 供給率 51% 天候不順により秋野菜減 目標：70% (28年実績：51%)	○上期 学校給食納入 18品目 6.5t出荷(玉ねぎ出荷増) 供給率 52.5% 下期出荷増の見込み 目標：70% (上期実績：52.5%)
	農産物直売所を生涯現役・一生農業運動の拠点と位置づけ、地場農産物の売上げを2割アップする。 評価指標：直売所販売高	○28年愛菜館 地場産農産物売上 地場野菜販売 計画 86,040千円 101.8% 地場野菜販売 計画 87,588千円 100.9% 前年同期 86,777千円 ・利用組合員へのJA育苗ハウスの貸付け検討 ・イベント実施 本年開催日数 47日 販売金額 59,991千円 前年開催日数 46日 販売金額 56,019千円 目標：1億200万円 (28年実績：1億1,629万円) 地場野菜・加工品・工芸品	○29年愛菜館 地場産農産物売上 上期実績(3月～8月) 46,683千円 前年同期 48,253千円 前年比96.7% 目標：1億200万円 (上期実績：6千480万円) 地場野菜・加工品・工芸品

成果目標実現に向けた 重点施策と3年後の目指す姿	年次別工程(実施具体策・到達目標)		
	平成28年度振り返り	平成29年度上期振り返り	
米の品質向上と多様な品揃え	中干しによる確実な生育抑制を図り スリムな稲づくりを目指し1等米比率の高位安定化。 評価指標：1等米比率	○中干し指導会 73会場 562名参加 ○穂肥指導会 96会場 634名参加 緊急案内 穂肥2回 目標：95%以上 (28年実績：86.1%)	○中干し指導会 88会場 474名参加 ○穂肥指導会 84会場 511名参加 緊急案内 穂肥1回 目標：95%以上 (実績：-)
	土づくりによる登熟後半までの 稲体活力維持 評価指標：秋すき込み率	○土壌分析は354ヶ所調査 10月上旬に土づくり指導会2会場開催 (中田倉庫・刈羽支店) 目標：20% (28年実績：26.4%)	○土壌分析は1年300ヶ所調査 10月上旬に土づくり指導会4会場開催予定 目標：20% (実績：-)
	差別化商品としての「こだわり米」の取扱拡大。 評価指標：こだわり米取扱量	○早期越路 55.4ha 4359.1俵 7割減減 15.4ha 1163.5俵 あきだわら 36.1ha 3483.5俵 目標：8,600俵 (28年実績：9006.1俵)	○早期越路 54.4ha 3292.2俵 7割減減 12.8ha -俵 あきだわら 55.2ha -俵 目標：8,600俵 (実績：-)

成果目標実現に向けた 重点施策と3年後の目指す姿	年次別工程(実施具体策・到達目標)		
	平成28年度振り返り	平成29年度上期振り返り	
食農教育を核とした地域の活性化	○健康への関心が高いことから好評のウォーキングをJAの取り組みとして拡充 評価指標：上記活動参加者数	○女性部支部で独自ウォーキング開催 4会場 ○下期にJA柏崎秋の味覚満喫ウォーキング開催 11月13日 (287名参加) 目標：300名 (28年実績：324名)	○女性部支部で独自ウォーキング開催 4会場 下期に3会場予定 ○下期にJA柏崎秋の味覚満喫ウォーキング開催 10月7日予定 (300名募集) 目標：400名 (上期実績：30名)
	小学5年生の米づくり体験の支援を充実させる。 評価指標：上記活動取組回数	○田植4か所指導(高柳・鯖石・北条・半田) 稲刈り指導(高柳・鯖石) 収穫祭(鯖石・半田) 目標：四半期に1回 (28年実績：12回)	○田植7か所指導(高柳・鯖石・北条・半田・刈羽 東村山・はまなす) 下期稲刈り指導(高柳・鯖石) 目標：四半期に2回 (上期実績：26回)
	○地場産品を使った料理講習・食農研修の実施等、食農教育を通じた地域住民の健康増進と絆を深める取り組み。	○野菜ソムリエ 3会場(愛菜館・刈羽・西山) ○食育ソムリエ 1会場 2回実施 ○1回の実施を行いました、参加者が多く、毎月2回に分けての実施 ○イベントでは、利用組合員が試食品を持参し作り方のレクチャーをして購買者との親交を深めた。	○野菜ソムリエ 3会場(愛菜館・刈羽・西山) 4月より11回実施 ○食育ソムリエ 1会場 8回実施 食育プロジェクト ○そば打ち体験工房 1月開催予定